

之雙聲段借也、鄭不從、从土皮聲、滂禾切、  
其說而易之曰、讀爲畔、从土皮聲、十七部、  
許曰、坡者曰阪、然則坡、坡異部同字也、說  
卦傳、其於稜也、爲反生、段借反、爲阪也、  
崎嶇、燒角、  
從自反聲、略、中、一曰山脅也、注、阪險傾危也、呂覽、阪險原、高、  
曰、阪者曰阪、

〔類聚名義抄〕六阪蒲板反 澄音澄 〔同〕六坂音反、正阪

〔伊呂波字類抄〕左地儀、サカ澄、又云、壘隴、水大坂也、在天、坡、サカ坂、亦作阪、サカ澄

〔和漢三才圖會〕五十六坂音反 坡音破 和名左加 澄音登 磴同 訓古左加

坂唐韻云、地險也、小坂曰嶺、及登、陟之道曰嶺、岡、鼓、山、白、雲、洞、石、磴、七、百、級、如、登、天、然、

九折訓豆々、良於里 凡山之盤紆如羊腸曰九折

〔日本釋名〕地理坂 さがしき也、下を略す、一説さかさまの意か、不順なる道なればなり、

〔倭訓栞〕前編十さか 坂は逆ふなり、登降順路ならざる意也、

〔倭訓栞〕前編十六つゝらをり 馬を御するに、何遍も馬も〇を誤、引廻す式あり、是を葛折といふ、

名目抄にも、まか書せり、葛を折が如くに折返し、折返しする意也、〇中、九折坂をつゝらをりの道

といふも、義同じ、吉野郡の村名に、九尾をつゝらをりとよめり、枕草紙に、遠くて近き物、くらまの

つゝらをりと見えたり、文選の道互折、又盤折をもよめり、新六帖に、

青つゝらつゝらをるてふ、まげき野はとほりがたくぞ駒もやすらふ

前犬膳大夫藤原政宗、山家雪を、

中々につゝらをりなる路たえてゆきにとなり、のちかきやまざと、伊達彈正少弼宗遠男、應永

二年九月卒、

〔類聚名物考〕地理十七九折坂 つゝらおり 盤坂

九折坂を今つゝらおりといふ、馬の騎方など、習はせることなり、つゝらおりの略語なるべし、